

美しい街作りートランスボックスラッピング

大分市武漢事務所 趙 南星

灰色や茶色のトランスボックス（配電用地上機器）は、どの都市や街でもよく見かけるものです。街並みの写真を撮る時、あえてトランスボックスを避けて撮影する人も多いでしょう。武漢市内では、2021年9月から、「トランスボックスラッピングプロジェクト」が始まり、現在ではすでに7,521基が整備済みで、どれも美しく特別な街の景観となっています。



▲建設大道銀行出入口



▲沿江大道租界区

ラッピングのデザインは設置場所の周りの風景に合わせて行われるため、整備前に周辺と建物に関する実地調査、デザインテーマの確定、実施スケジュールの作成などの準備に多くの時間がかかります。樹木の脇にあるものには同じ樹木を描いたり、太湖石の脇にあるものには石を描いたりするなど工夫をしています。



▲解放公園の道端



▲建設大道

※写真は武漢事務所スタッフ撮影

美しい街作りートランスボックスラッピング

大分市武漢事務所 趙 南星

作業実施の際には、湖北省美術学院や武漢の各大学の芸術設計学部の大学生ボランティアがトランスボックスに絵を描きます。山水風景やアニメキャラクター、人物、建築物などをテーマに、トランスボックスを美しく彩っていきます。



▲武昌美院付近



▲「緑水青山就是金山銀山（緑の山河は金山・銀山にほかならない）」-習主席語録

トランスボックスに絵を描く際は、アクリル顔料を利用し、さらに表面には透明な固化材を上塗りすることで、描かれた絵と美観の維持や、ほこりや落書き、ビラ貼りを防止し、2~3年間は描かれた時の状態を維持できるようにしています。

また、絵を描く作業は、天気の影響されやすく、雨雪に濡れて色が落ちるのを防ぐため、作業の前後三日間は連日晴れであることが必須だそうです。紙やすりで表面を磨き、きれいになった小さいトランスボックス(絵画面積約5平米)に、1日かかりで絵を描き、完成となります。



▲解放公園の入口に絵を描いている様子



▲解放公園内

※写真は武漢事務所スタッフ撮影

美しい街作りートランスボックスラッピング

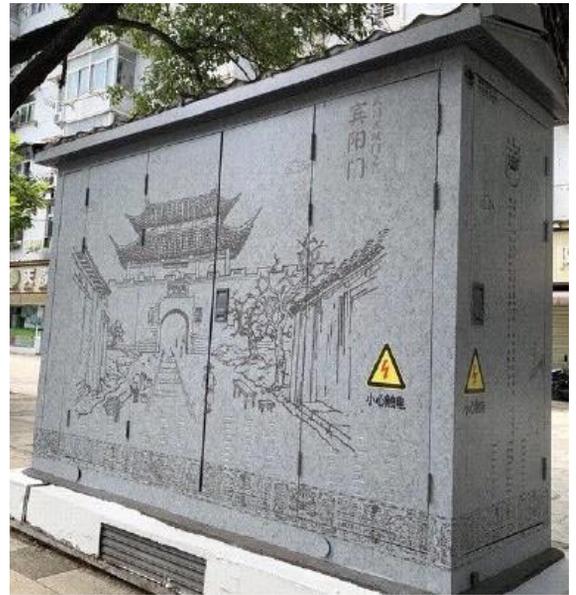
大分市武漢事務所 趙 南星

各エリアの絵にはそれぞれの特徴があります。

武昌区ではシンボルである黄鶴楼を始め、昔の城壁、戸部巷、昙華林などの歴史的古跡が多く、地域の個性が最も強いエリアです。そのため、「黄鶴楼詩句文化」、「戸部巷武漢風味グルメ」、「辛亥革命紅色文化」などをテーマにした絵が描かれています。



▲熱干面-戸部巷美食街



▲武昌区粮道街

黄鶴楼周辺では、黄鶴楼関係の詩句が書かれてあり、子ども連れの親たちが興味深く読んでいる姿もよく見られます。本を読むより子どもたちの勉強への意欲を高める効果がありそうです。



▲解放公園の道端



▲建設大道

※写真は武漢事務所スタッフ撮影

美しい街作りートランスボックスラッピング

大分市武漢事務所 趙 南星

江岸区は主に山水画が多いですが、解放公園路辺りでは、有名高等学校や国防科技大学があり、軍事をテーマにした絵が多いです。



▲国防科技大学出入口



▲解放中学校出入口

季節の風物詩の絵もよく見られます。

美しいトランスボックスは、街の景観や都市文化を伝える掲示板上にもなり、季節感やぬくもりが感じられ、武漢のまちに彩りを加えています。

※写真は武漢事務所スタッフ撮影